



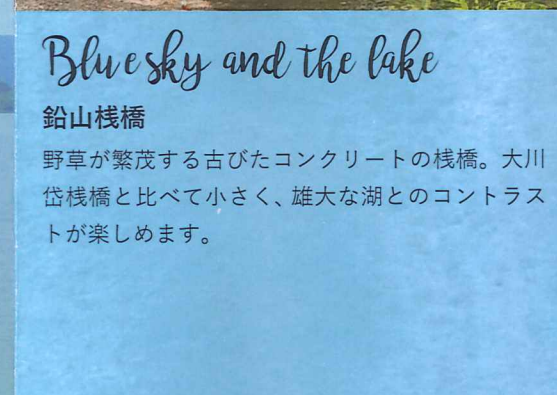
鉛山棧橋



礼拝堂



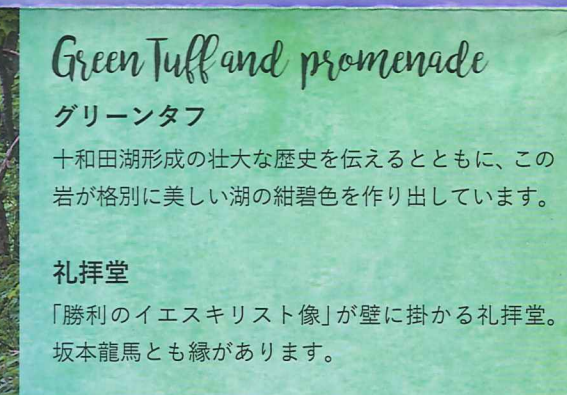
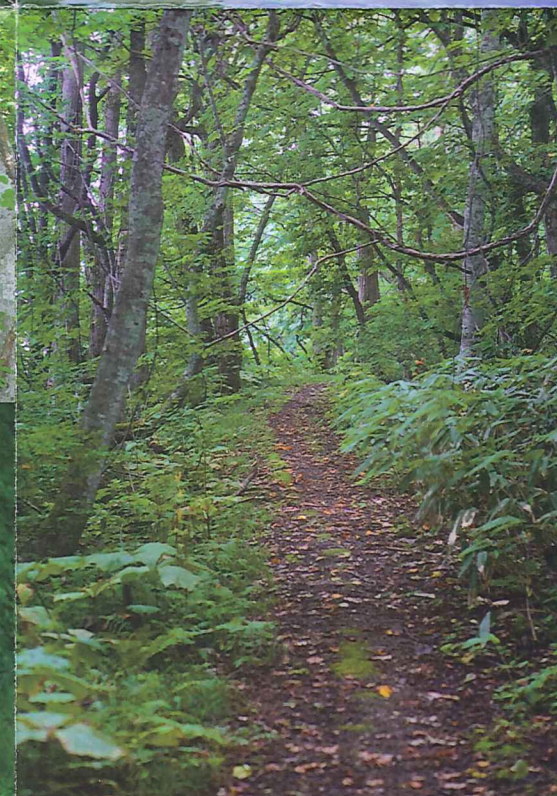
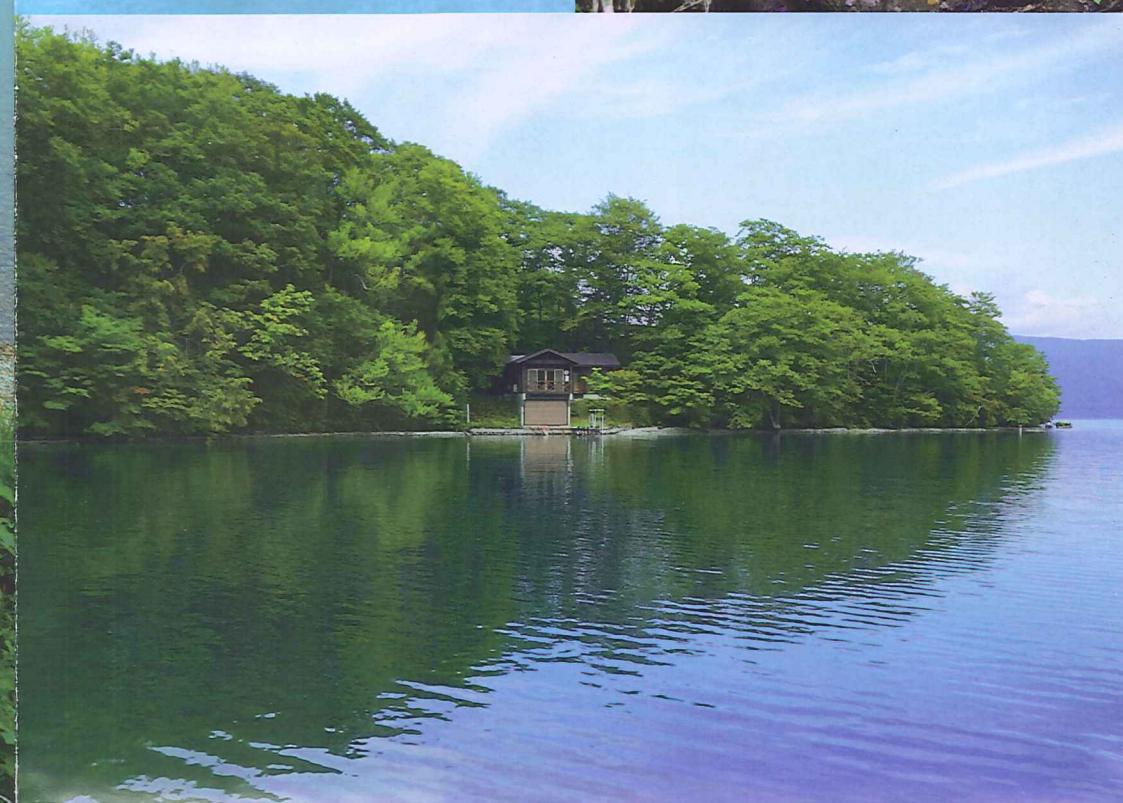
陛下のさんぽ道



Blue sky and the lake

鉛山棧橋

野草が繁茂する古びたコンクリートの棧橋。大川岱棧橋と比べて小さく、雄大な湖とのコントラストが楽しめます。



Green Tuff and promenade

グリーンタフ

十和田湖形成の壮大な歴史を伝えるとともに、この岩が格別に美しい湖の紺碧色を作り出しています。

礼拝堂

「勝利のイエスキリスト像」が壁に掛かる礼拝堂。坂本龍馬とも縁があります。

グリーンタフ



大川岱棧橋



木のぬくもりに
包まれて



Towada Hotel

十和田ホテル

〒018-5511 秋田県鹿角郡小坂町十和田湖湖畔
TEL 0176-75-1122 FAX 0176-75-1313
<http://towada-hotel.com/>
※ご利用の際はホテルへご確認ください。



湖の先に
芝生の望む

十和田プリンスホテル



Towada Prince Hotel

十和田プリンスホテル

〒018-5511 秋田県鹿角郡小坂町十和田湖大川岱65-1
TEL 0176-75-3111 FAX 0176-75-1313
<http://www.princehotels.co.jp/towada/>
ランチ 予約：昼食のみ可 TEL：0176-75-3111
十和田湖 西湖畔温泉（日帰り入浴）
営業期間：4月中旬～11月
※ご利用の際はホテルへご確認ください。



Towada West lake Trees map

青と緑に包まれながら
非日常が享受できる
ささやかな西湖畔時間

十和田湖 西湖畔 樹木マップ



アクセス

空港

●青森空港：JAL・東京(羽田)便・札幌(新千歳)便・大阪(伊丹)便・名古屋(小牧)便
●三沢空港：JAL・東京(羽田)便 ●大館能代空港：ANA・東京(羽田)便
※各空港から十和田湖方面への直道の公共交通機関はありませんのでレンタカーのご利用が便利です。

電車

東北新幹線・秋田新幹線(東京・仙台方面より)
●八戸駅：JRバス東北「おいらせ号」 ●新青森駅：JRバス東北「みずうみ号」 ●七戸十和田駅：シャトルバス(十和田湖温泉郷・焼山)
●盛岡駅：レンタカー(約2時間) ●秋田駅：レンタカー(約2時間30分)
【在来線】十和田南駅：レンタカー(約45分) 【在来線】大館駅：レンタカー(約1時間) 【在来線】弘前駅：レンタカー(約1時間15分)
※大館・鹿角・弘前方面からはマイカー又はレンタカーのご利用をおすすめします。

車

●東北自動車道小坂I.C.から樹海ライン経由で31km(約50分) ●黒石I.C.から国道102号経由で40km(約50分)
●青森駅から東北自動車道(浪岡I.C.から黒石I.C.)経由で64km(約1時間20分) ●大館能代空港から国道103号経由で74km(約1時間30分)
●八戸自動車道八戸北I.C.から百石町、十和田市経由で83km(約2時間50分)

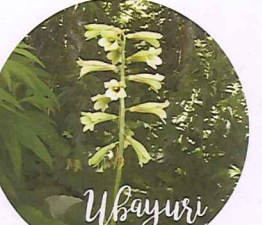
問い合わせ先：小坂町観光産業課 観光商工班／TEL 0186-29-3908

協力：小坂まちづくり株式会社 発行：秋田県建設部都市計画課



A Wild grasses and flowers of the colony
トクサの群生地
山野草の遊歩道へとつづく

大きな木々の足元に可憐な花を咲かせる山野草。どの季節を歩いても、様々な山野草やコケ類、地衣類が散歩を楽しませてくれます。

 ギンリョウソウ	 トクサ	 オオウバユリ
 ヤグルマソウ	 エンレイソウ	 笹の花 50～60年に一度だけ花をつける

C Waterside of the Green Tuff
グリーンタフの水辺
(緑色凝灰岩)

海底火山活動による火山岩に含まれる鉱物が熱水変質により緑色に変化したもので、黒鉱や石油採掘の目印です。十和田湖形成の壮大な歴史を伝えるとともに、この岩が格別に美しい湖の紺碧色を作り出しています。


グリーンタフ

D Majesty of the promenade
陛下のさんぽ道

昭和天皇が散策された陛下のさんぽ道。





樹木

西湖畔には、“地域の象徴”や“気候風土に根ざした特徴的な外観を有する”樹木などが、単体や群として生育します。また、手つかずの自然を継承すべき特別名勝及び天然記念物であることから、十和田湖誕生やその後の火山活動等の影響、脈々と受け継がれる生命の力強さ、樹木と共生する地衣類等による自然環境の美しさを目の当たりにできます。

景観演出や防風機能
十和田プリンスホテルにおける景観演出や、十和田湖からの防風機能と考えられるドイツウヒやカラマツの屋敷林。

湖に張り出す木々
湖畔は厳しい環境に晒されます。長い年月の中で、冬季間の暴風雪や積雪、湖の浸食を受け、特徴的な景観が創出されます。

厳しい自然環境にも屈しない木々
長い年月の中で、暴風雪や積雪などの厳しい環境の影響を受けつつ、更に生長を続けようとする不屈の木々。

火山岩の上で生長を続ける木々
約1,100年前の大噴火により誕生した十和田湖では、現在もその痕跡が見られます。例えば、湖底のグリーンタフ上を流れた溶岩が、地上に噴出し、その上で生長する木々も、特徴的な景観をつくりだします。

湖を包摂する木々
湖畔は植生豊かな湖辺一帯の山岳や樹木群に包摂されています。各規制も、樹木群への影響に配慮したものとになっています。

幹と共生する地衣類
ブナを含め、木々の幹には地衣類が共生し、独特な模様が見られます。これは、自然環境の美しさを物語っています。

樹齢千年を誇るカツラのひこばえ
遊歩道で散見されるカツラのひこばえ。長い年月とともに、主幹が衰え始めると、その周辺から新たなひこばえが萌芽し、その生命を後世に引き継ぎます。

十和田湖の水を涵養するブナ
ブナの落ち葉は分解に7～8年を要し、葉・枝・幹を通じて、雨水を幹や根周りに集めるなど、高い涵養性を持ちます。また、枝・幹は大変しなやかで折れにくく雪に強い木です。十和田湖の水は、約7割が、これらの涵養による湧き水であるといわれています。

建築物

特別名勝及び天然記念物である西湖畔は、自然環境との共生や景観形成への配慮等が大前提として掲げられており、建築物はそれらへの遵守が求められます。特に自然環境や西湖畔景観に溶け込むように存在する瀟洒な「十和田プリンスホテル」や、樹木群に抱かれ、宮大工の技術が競われた「十和田ホテル」は必見です。

十和田プリンスホテル
～自然環境や西湖畔景観と融合した瀟洒なホテル～
十和田プリンスホテルの営業開始は昭和52年です。昭和27年に「十和田湖および奥入瀬渓流」が「特別名勝及び天然記念物」に格上げされた後に新築されたため、厳しい建築規制に準拠しています。内部では、柱や梁に原木の丸太が使用されていることが目立ちます。また、ロビーやレストランの壁面は、床から約0.3mの高さからのビクチャーウィンドーを採用し、十和田湖の眺望を最大限に活かす演出が見られます。
上：十和田湖の環境や景観に配慮した外観。
下：丸太作りやビクチャーウィンドーの採用による内観。

十和田ホテル
～幻の五輪を機に、宮大工の技・芸・美を集結したホテル～
国際情勢の緊迫等で幻となった昭和15年の東京オリンピックを前に、日本を訪れる外国人観光客のための宿として、昭和14年に開業しました。当時、秋田・青森・岩手の三県から、宮大工80名を集めて技術を競わせたと伝えられている本館は、日本三大美林の天然秋田杉を巧みに配した木造三階建てで、外壁は杉の半丸太を張りつめています。登録有形文化財（文化庁）、近代化産業遺産（経済産業省、H19年度）宿泊可。
上：杉の半丸太を張りつめた、木造三階建ての外観。
中：吹き抜けの玄関ホールには樹齢65～85年の杉丸太を配す。
下：登録有形文化財（文化庁）と近代化産業遺産（経済産業省）

みんなで作りました

この樹木マップは、県・景観マネージャーや小坂町に暮らす方々が、3班に分かれて湖畔歩きを行い、参加者が気になる視点を持ち寄りながら、ワークショップでまとめたものを参考にしております。湖畔歩きやとりまとめは、小坂町役場や小坂まちづくり株式会社の方々に“西湖畔の先生”となっていただき、湖の成り立ち、景観、建築物、樹木、山野草、グリーンタフ等の説明をいただきました。

